

土建しんぶん

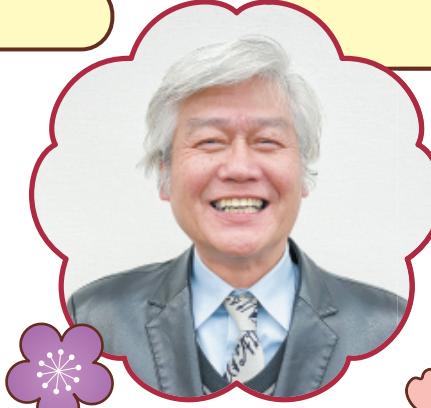
墨田、江東、江戸川合同編集

東京土建一般労働組合
江東ブロック会議
江東区北砂1-1-1-4
TEL(3640)2411
発行者 実川英治
定価 30円
新聞代は組合費に含まれています



謹賀新年

力をあわせより良い江東支部へ
変化の年に、支部一丸で



東京土建一般労働組合
江東支部 執行委員長

富樫 康弘

組合員の皆様、ご家族の皆様、新年明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、皆様のご健勝とご多幸を、心よりお祈り申し上げます。

昨年も、国内外で政治の大きな転換点となる出来事が続きました。

アメリカでは1月、トランプ氏が再び大統領に就任し、国際社会に大きな影響を与える発言や政策が連日注目を集めています。ウクライナとロシアの戦争を「1日で終わらせる」といった強気の発言や、中東情勢についての独自の構想など、評価は分かれるものの、指導者として強い姿勢を示す場面が多くありました。

一方、日本では10月の自民党総裁選で高市議員が選出され、新しい総裁として首相に就任しました。就任当初から「政治とカネ」の問題にどう向き合うのかが注目されていましたが、掲げていた企業・団体献金の禁止が具体的に進んでいないことに対して疑問の声もあります。また、議員定数削減ばかりが議論

組合員の皆様、ご家族の皆様、新年明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、皆様のご健勝とご多幸を、心よりお祈り申し上げます。

昨年も、国内外で政治の大きな転換点となる出来事が続きました。

アメリカでは1月、トランプ氏が再び大統領に就任し、国際社会に大きな影響を与える発言や政策が連日注目を集めています。ウクライナとロシアの戦争を「1日で終わらせる」といった強気の発言や、中東情勢についての独自の構想など、評価は分かれるものの、指導者として強い姿勢を示す場面が多くありました。

一方、日本では10月の自民党総裁選で高市議員が選出され、新しい総裁として首相に就任しました。就任当初から「政治とカネ」の問題にどう向き合うのかが注目されていましたが、掲げていた企業・団体献金の禁止が具体的に進んでいないことに対して疑問の声もあります。また、議員定数削減ばかりが議論

私たち東京土建の組合員に動きは働き方や生活に影響を要素です。高市政権には、現場声に耳を傾け、建設産業に携わる者が安心して働く環境づくりしてほしいと期待しています。

いずれにしても、組合員の生る政策が着実に前進するようつても国民にとっても、より良いとなることを願うばかりです。

このような情勢の中で東京の諸運動に、ご理解とご協力りがとうございました。今年行委員長として、建設現場で働く暮らし・家族・仕事」を守る立つて、走り続ける所存でこれらのために、「組織拡大とともに言っていますが、とても組織が大きく、そして強

東京23区ではほとんどが制定江東区は、まだ
とつて、政治の及ぼす重要なです。「アスベスト訴訟の全面解決」まだま
で働く仲間の半分くらいです。「住宅デー」成功しましよう。
わるすべての労くりに力を尽
活と権利を守
へ、東京土建に
長い政権・内閣
土建江東支部
を頂き誠にあ
も江東支部執
運動の先頭に
さいます。こ
重要になります。
組織強化」い
くなければ、
す。「共に頑張っていきましょう!」

バッテいきたいと思います。東京土建組合組織の力を持つても、これらの取り組みを実行実現し、要求を勝ち取るのは、極めて大変で困難だと思います。これらすべての要求実現には、やはり江東支部組合員の皆様、家族の皆様のご理解とご協力が何より、何より、必要となりますので、その点を踏まえて今年も皆様と共に、奮闘していきたいと思います。またこれらの取り組みを宜しくお願ひ申し上げます。そして「より良き江東支部・誇り高き江東支部」にしていきたいと思います。本年も江東支部組合員の皆様・家族の皆様と心を一つにして、悔いのない組合活動をしていきたいと思いま

されの中で、議員報酬の見直しこそ優先すべきではないかという意見も根強くあります。高市首相は精力的に政策課題に取り組んでいる様子も見られますが、失言が取り上げられる場面が多く、台湾有事に関する発言などがメディアで大きく報じられ、批判を受けたこともあります。

さらに、物価高騰、特にお米の価格上昇、消費税減税の議論、裏金問題の再燃など、国民生活に直結する課題が次々と浮かび上がっています。私たちの暮らしに関わる問題だからこそ、これらの対応を最優先に進めてもらつ

いろいろなことが前に進んで、いきませんので、江東支部組合員の皆様、家族の皆様の力を貸していただければ幸いです。そして今年も「命の綱土建国保」を守り抜く、こんなに良い制度、補償はないです。「マイナンバー保険証阻止」12月から従来の保険証が使えなくなります。「標準賃金の獲得」最低賃金1500円から1700円を目指します。「公契約条例の制定」



The image features large, bold, orange characters with a gradient effect, reading from top to bottom as 前進 (Qianjin). The characters are set against a background of horizontal stripes in light beige, cream, and light orange. In the upper right corner, there is a stylized red flower with eight petals and a central cluster of white dots.

The image features a large, bold brown Japanese character 'を' (wō) at the top left. To its right is another large brown character 'と' (to). The background is a light orange color with a subtle geometric pattern. In the lower-left foreground, there is a stylized green leaf with three lobes and a pink flower with a star-like center. In the lower-right foreground, there is a larger red flower with five petals and a pink flower with a star-like center.

平和の記憶を歩く 平和戦跡めぐりを実施

戦争の記憶をたどり、平和を考える一日 歴史に触れ、平和を学ぶフィールドワーク 地域に残る戦争の記憶をたどる
専門家の案内で深まる理解 参加者が感じた平和の重み 記憶を未来へつなぐために

11月16日(日)、教育宣伝部と厚生文化部の共催による「平和戦跡めぐり」を実施しました。江東区には、東京大空襲をはじめとする戦争の記憶を今に伝える貴重な史跡が各地に残されています。今回は、東京大空襲・戦災資料センターの工藤芳弘副館長をガイドとしてお招きし、東陽町から支部会館まで実際に歩きながら、その歴史に触れるフィールドワークを行いました。参加者は、地域に残された痕跡を見て回りながら、当時の状況や人々の体験について丁寧な解説を受け、改めて平和の尊さを感じる時間となりました。また、ウォーキング形式の企画ということもありますがあり、健康づくりにもつながる有意義な催しとなりました。これからも、戦争の記憶を風化させず、平和の大切さを次の世代へ伝えていく取り組みを続けていきます。



大島分会
寺内 博

11月16日天気に恵まれた中、工藤さん(東京大空襲戦災資料センター)と共に江東区内の史跡めぐり(フィールドワーク)をおこないました。集合場所の東陽公園は、関東大震災(1923年)の時に震災復興公園として設置され、現在は地域の防災、憩い、コミュニティの場としての役割を担っていることを知りました。東陽国民学校(現在の東陽小学校)では、3階建ての校舎で百十数名が命を亡くされ、学校に逃げていたらこの人たちと同じ運命だったのだと思ったとの手記を配布された資料と共に説明を受けました。

東京大空襲で亡くなった東陽4・5丁目の方々を供養するために建てられた深川親子地蔵尊。深川高校は、飛行機の補助タンクを作るための学校工場となっていました。山積された和紙やラッカーで空襲の夜の被害が大きく、避難した人々から多くの死傷者を出しました。現在、校内に建てられた慰靈碑は生徒たちが清掃、献花をしています。

南砂の六地蔵は東京大空襲で焼失しましたが、1952年頃に戦災殉難者慰靈もかねて再建されました。「1945年3月9日あしたのやくそく」という絵本にもなっています。

午後からは戦災資料センターで証言映像や展示を見ました。二度と戦争の惨禍を繰り返すことなく、平和の世界になることに貢献したいと思います。



亀戸分会
教育宣伝部長
菅野 元淑

平和戦跡めぐりに参加しました。「深川親子地蔵尊」、区役所前の「平和の母子像・希い」、南砂の六地蔵、馬頭観世音と見て廻りました。公園・学校・郵便局など、広い敷地があった場所が被災して亡くなられた方の仮埋葬した場所になっていたことを知り、戦争の悲惨さを改めて感じました。工藤さんの解説がとても分かりやすく、資料と合わせて確認することができました。ゆっくり歩きながらのフィールドワーク、過去の出来事を身近に感じ、平和の大切さを改めて心に刻む一日となりました。

午後からの戦災資料センターの見学では、私たち以外に若い人、家族連れの来場者もいました。この人たちが東京大空襲のことを学んで、周りの人たちに伝われば、戦争反対、平和の世の中になっていくことを望みます。戦後80年が経過し、戦地に行った人、空襲に遭った人が減っています。私たちは過去のあやまちを学び、この先の未来が平和で続いているようにしていかなければなりません。



砂中分会
庄司 緑

今から80年前の出来事、何不自由もない現代。今の子ども達、若い人達。

戦後の食べるものが何もない時代、我が家は義父もフィリピンで24歳の若さで戦死し、大変苦労したと聞いています。

戦争のおそろしさ、こわさ、つらさをわかりやすく説明していただき、戦災資料センターでは当時の写真、資料を詳しく説明していただき、貴重な経験ができるとてもよかったです。



南砂分会
太田 まゆみ

平和戦跡めぐりに参加して、工藤さんのお話を聞きながら歩いた時間は、とても心に残るものでした。丁寧でわかりやすい説明のおかげで、当時のようや人々の気持ちが自然と想像でき、たくさんの学びがありました。

とくに、江東区で多くの方が犠牲になったことを知った時は、胸がぎゅっと締めつけられる思いがしました。母子像や親子地蔵の前では、製作の方が込めた願いや想いがそっと伝わってくるようで、静かに手を合わせたくなる気持ちになりました。

今回のめぐりを通して、過去を忘れず、平和を大切にしていくという思いがいっそう強くなりました。



南砂分会
岡部 雅代賜

工藤さんの戦跡フィールドワークについて、これまで第2次世界大戦のこととは、自分で調べた範囲でしか知りませんでした。今回工藤さんのお話を聞いて、当時の出来事や人々の暮らしがぐっと身近に感じられるようになりました。自分で見聞きするのとは違い、実際に歩きながら説明を聞くことで、歴史が少し「自分ごと」になるような気がしました。戦災資料館については、丁寧に見学していたら時間が足りず、改めて再訪してじっくり見たいと思いました。今回のこのような企画に、また参加したいと思いました。



砂中分会
堀内 裕彦

午前中は東陽町・南砂の戦跡、地蔵尊、慰靈碑、母子像をめぐりました。ガイドしてくださった工藤さんは、戦争の悲惨さを、各所をめぐりながら丁寧に説明していただきました。

特に印象に残ったのは、当時「防空法」という法律があり、空襲によって起きた火災から逃げることなく消防活動するというもので、それにより落とさなくていい多くの命が犠牲になったことを初めて知りました。

また、区役所前の母子像の台座をわざと隠すように、植込みで囲まれてしまっていることに、残念だという説明も印象に残りました。

お昼を挟んで、午後は北砂1丁目の東京大空襲・戦災資料センターを見学しました。館内にはそんなに広くないですが、戦争に関する写真・映像・地図・遺品・書籍があり、充実していました。年配の学芸員さんからも戦争の悲惨さを教えてもらいました。また日を改めて見学したいと思いました。

戦争は二度とやってはいけないと強く思った今回の戦跡めぐりでした。



4砂分会
佐原 晶子

秋晴れの日曜日、東陽公園に集合し平和戦跡めぐりに参加しました。東陽公園から始まり、東陽4丁目の親子地蔵、東陽小学校や都立深川高校、江東区役所、南砂2丁目の六地蔵、馬頭観世音、北砂の戦災資料センターと、初老?の年代には散歩感覚でめぐることができるコースでした。東京大空襲で焼夷弾爆心地は江東区内にたくさんあり、公園は仮埋葬地として遺体

が置かれました。東陽公園も空襲で亡くなった人々の遺体が集められられ仮埋葬されました。遺体は後に発掘され、火葬にした遺骨が両国の東京都慰靈堂に納められました。親子地蔵は、知らない人は通り過ぎてしまう場所にありました。区役所前の母子像はなぜこの場所にあるのか、台座部分が植え込みに囲われている状況は残念です。横十間川をとおり、六地蔵へ向かいました。六地蔵の優しいまなざしが忘れられません。午後は戦災資料センターを見学。この悲劇を二度と繰り返してはいけないと、未来に語り継ぎたいと思います。



南砂分会
岡部 妙子

平和取材戦跡めぐりに参加して、砂町で生まれ育った私にとって、何気なく通っている道に戦跡が残っていることに、驚きを覚えると同時に、維持して残してくれている方々に感謝します。工藤さんのお話すべてに心がけ、うなづくことばかりでした。貴重なお話を聞くことができて、感謝したいと思います。

近くにあるのにずっと行きたかった戦災資料館。私が住んでいる町は、アメリカ軍が計画爆撃をしていた空襲地帯から外れていましたが、風の影響でほぼ焼失してしまったことを知りました。

秋の紅葉も感じながらの散策と戦跡めぐり、自分が今まで参加した企画の中で、一番刺さる企画でした。次回開催時には自分の子ども達世代、後継者世代のみなさんにもぜひ参加してもらいたいです。

東陽公園からスタートして、東京大空襲で亡くなった方々を慰靈する碑を見て廻り、自分の身边にこんなにたくさんの戦跡があるとは知りませんでした。案内してくださった工藤さんの話を聞くと、たくさんの人が命を落とし、とても大変なことだったと思います。戦災資料センターでは、実物の焼夷弾の重さや大きさにびっくりしました。

これから先、今日歩いた道や訪れた場所を通るたびに、私たちはきっと今日の話を思い出すことでしょう。同じ風景でも、今回の学びを経て見え方が少し変わり、心に留めておきたい思いがよみがえるはずです。



砂中分会
漆山 久子

秋晴れの日曜日、東京大空襲のあった戦跡めぐりに参加しました。ガイドの工藤さんの説明に、戦争の悲惨さに胸が締め付けられました。東陽公園は、「子どもたちが楽しく遊べる所」としか思っていませんでしたが、ここにいる誰もが悲しい出来事があったことなど知りませんね。7か所の戦跡をめぐりましたが、特に母子像に戦争の痛ましさを感じ、胸が苦しくなりました。未來の子どもたちにも見て聞いて知ってもらいたいと思いました。

私は山形で生まれました。3歳の時に父は戦地へ、母は私たち子どもをかかえて、父の帰りを何年も待っていました。戦地にいた父からは、現地でのつらく苦しい話を何度も聞かされました。

母子像に母の姿が重なり、胸がいっぱいに。どんなことがあっても、未来のある子どもを戦争に巻き込むことだけは、絶対に反対です。今回の企画に参加できて、本当に勉強になりました。



- ① 東陽公園に集合し、工藤さんから資料の説明とフィールドワークの概要を聞きました。
- ② 深川親子地蔵尊。出征中に空襲で娘さんを亡くされた石工の寺田孝三郎さんが像を刻みました。
- ③ 親子地蔵尊の由来。東京大空襲で亡くなった東陽4・5丁目の方々の供養のために建てられました。
- ④ 非核平和都市宣言を求める区民の署名運動が実を結び、江東区は1986年12月13日に「平和都市宣言」をしました。当時、江東支局もたくさんの署名を集め運動をけん引しました。
- ⑤ 平和の母子像「希い」台座のプレートには犠牲者の鎮魂と恒久の平和、安全を願して永く忘れないため、とあります。
- ⑥ 六地蔵・戦災殉難者供養の碑。空襲で消失しましたが、1952年頃に再建されました。
- ⑦ 空襲の全体像が分かる、大きな都心部の被災地図。
- ⑧ 空襲から逃げ惑う中、多くの人が防火用水をかぶったり口に含んだり、貯水槽に身を潜めて炎から逃れようとしました。しかし小さな水槽はすぐに干上がり、朝にはその周りで多くの人が命を落としていたといいます。

